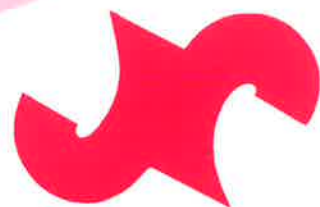


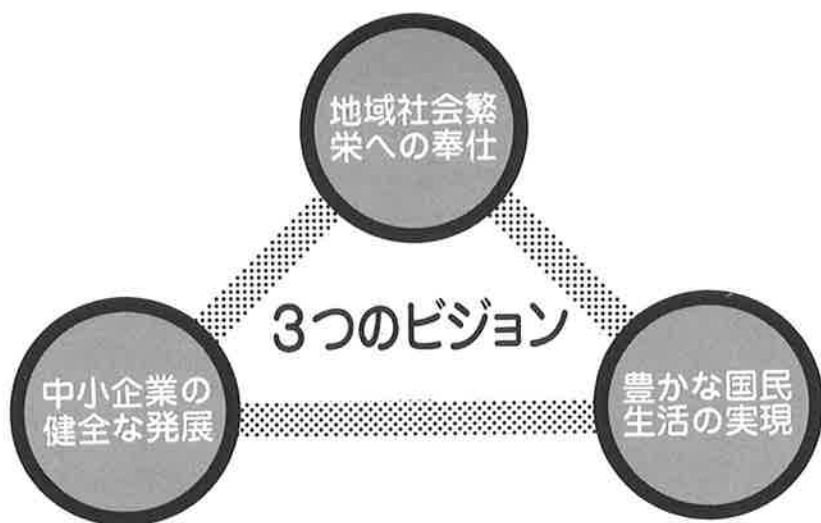
# と も え

No. 99



■ 函館商工会議所報 ■  
**1989 7月号**

行動する  
はつらつたる  
商工会議所



はこしんは豊かな暮らしと  
確かな未来の実現に  
お手伝いいたします。



本部 函館市豊川町7番19号 TEL22-1241(代)

本店	函館市豊川町15番20号	TEL 22-1247(代)	亀田支店	函館市亀田本町56番4号	TEL 42-3820(代)
松風町支店	函館市松風町11番15号	TEL 23-6221(代)	中道支店	函館市中道1丁目24番12号	TEL 51-1711(代)
ばんだい支店	函館市宮前町14番15号	TEL 41-6236(代)	上磯支店	上磯郡上磯町飯生2丁目4番24号	TEL 73-2151(代)
五稜郭支店	函館市本町30番24号	TEL 52-0511(代)	えさん支店	亀田郡恵山町字中浜115番の4	TEL 84-2111(代)
弁天支店	函館市弁天町13番11号	TEL 26-3646(代)	七飯支店	亀田郡七飯町字本町392番8	TEL 65-2501(代)
千代台支店	函館市千代台町12番22号	TEL 51-5238(代)	木古内支店	上磯郡木古内町字本町53番1	TEL 木古内 2-3121(代)
湯川支店	函館市湯川町2丁目18番7号	TEL 57-1492(代)	知内支店	上磯郡知内町字重内13番地の11	TEL 知内 5-5611(代)
花園支店	函館市日吉町1丁目27番3号	TEL 53-5521(代)			

視 点	1
会議所の動き	2
地域の景気	6
調査レポート	8
アドバイスコナー	10
寄 橋 文	12
Q & A	14
情報コーナー	16
ティータム	18
ご 案 内	20



### ● 視 点

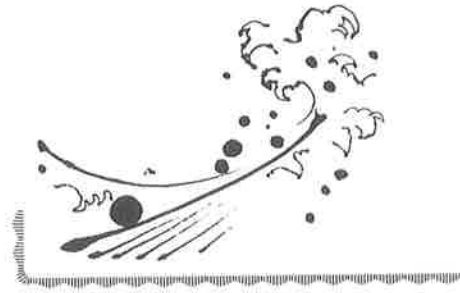
少しは梅雨らしい日もありましたが、今年も間もなく港まつりの季節を迎え夏全開です。

特に今年の港まつりは、開港百三十周年を記念して盛沢山のイベントが用意され、楽しい一週間が期待されています。

ところで、昭和六十年代より増加しだした観光客は、今年も増加の傾向が見えています。五十年代の観光客入込数二百七十三万人、六十一年度二百九十九万人、六十二年度三百四十二万人、昨年は三百九十六万人とこの五年間連続して増加してきており、特に、連絡船の終航や青函博等の大イベントのあった最近二か年の伸び率が高くなっています。また、今年には日航の七月二十二日からの新規乗入れや全日空の大型機投入などにより、空の便の容量が二十五%も増加され、津軽海峡線の強化もあり、今夏の観光客の足の便は、一段とよくなっています。この観光客を分折してみますと、本州客が全体の六十五%を占め、宿泊客は全体の五十四%にも達し、地域活性化に大きく貢献しています。

また、文字どおり北海道の玄関口として機能した旧国鉄若松ふ頭と連絡船摩周丸が、間もなく設立される第三セクターにより、明年七月には、装いも新しく、函館の歴史を刻んだ観光拠点の一つとしてお目見えすることでしょう。旧日銀支店の活用やイギリス領事館の復元など、日本の近代化に大きな足跡を残した資源の活用に注目しましょう。

# 会 議 所 の 動 き



## 昭和63年度事業報告 並びに収支決算等を承認

### 第2回 通常議員総会

本商工会議所第二回通常議員総会は、去る六月二十八日、本所に於いて開催され、議員八十五人（うち委任状提出二十六人）が出席して、六月十九日の第五回常議員会で通常議員総会に提案することが決定された、昭和六十三年事業報告並びに収支決算報告等を審議し、いずれも原案通り承認しました。

議事に先立ち、議員の日本商工会議所、道商連の表彰規程等に基づき感謝状伝達式と職員の勤続表彰が行われ、次いで病欠欠席の川田会頭に代わって村瀬副会頭から「当市においては、昨年の青函トンネル開通や青函博などの開催もあり、観光客が大幅に増加する一方で、物流にも大きな変化がみられ、これらが市内の経済活性化につながり、経済は順調に拡大してきている。本所としては、引き続き今年度に於ても当地域の経済活

化の諸対策の推進に努力するとともに、特に今年度は会員増強運動等を展開し、財政基盤の確立に努めて参りたい。」との挨拶がなされました。

次いで議事に入り、まず報告事項については、第三十九回全道商工会議所大会や若松ふ頭再開発計画等について報告がなされ、部会・委員会よりの報告の後、常議員会で決定された本所事務規程の改正や新会員の加入などについて報告がなされ、いずれも異議なく了承されました。

次いで附議事項については、まず昭和六十三年事業報告と収支決算を一括上程し、平野専務理事より、昭和六十三年度は青函博で終始した年であったが、一方では青函ツイン商工会議所の提携をはじめ全国商工会議所専務理事・事務局長会議の開催や先進企業の誘致決定、個人年金共済制度の創設

など例年になく多くの事業を実施し、本所としては実り多い年であった旨の事業報告がありました。

次に日野部長より昭和六十三年度収支決算については、会員並びに議員各位のご協力により、収入の決算額は三億一千五百八十七万五千二百四十六円と十二%の増となり、明年度への繰越金は四千九百九十八万九千九百二十四円となった旨の説明がなされ、満場一致でこれら案件を承認することに決定しました。

次に三号議案の会員増強運動については、本所の昭和六十三年度決算では、表面上単年度収支が黒字となっているが、議員改選特別会費や青函博関係の事業収入など臨時の収入を除いた実質収支では約七百万円近い赤字であることからしても、本所の財政は依然厳しい状況にあることに変わりはなく、そこで今年度は財政基盤を確立するため、まず事業所数で六百五十件、口数にして千三百口を目標に会員増強運動等を実施していきたいとの提案理由が示され、満場一致で承認されました。

# みなみ北海道広域商工振興連絡協議会開催

みなみ北海道広域商工振興連絡協議会（会長 川田寛）の平成元年度総会が、去る六月二十一日、森町のプラザ武蔵において開催されました。

当協議会は、みなみ北海道の各地商工会及び商工会議所が連絡協調しながら道南圏の広域的な経済振興を図ることを目的に昭和六十二年に設立された民間レベルでの連合組織体です。

当日は、昭和六十三年度事業報告・収支決算並びに平成元年度の事業計画・収支予算、役員改選などが審議されました。

本年度の事業計画として、青函インターブロック交流圏計画の推進、リゾート地区の整備、企業誘致、広域観光ルート整備と広域観光圏の確立、道縦貫自動車道、高規格道路、大沼トンネルの建設促進、道新幹線（青森～函館）早期開業の実現などを決めました。

さらに、これらの事業を推進させるためには、函館市長、渡島・

松山町村会長とのトップレベルで

## 函館地域経済懇談会開催

道経連の主催による「函館地域経済懇談会」が、去る六月十六日五島軒本店において開催され、当地域の交通体系の整備状況をはじめ、青函インターブロック構想や産業振興対策などについて、当地域経済人を主体に、道経連との幅広い意見交換が行われました。

この懇談会は、道経連が道内各地域の実情をよく把握するために各地で開催しているもので、当市での開催は昭和六十二年以来二年振りとなりました。

当日は、当地域から木戸浦函館市長や本所下郡山副会頭など、経済界や行政側から、三十人余と、道経連側からは四ツ柳会長や森鼻副会長をはじめ関係の役員が出席して開催されました。

懇談会では、まず、当地域を代表して木戸浦函館市長から「当市

の話し合いの場が必要であり、今後協議会の中で懇談の場をもつことを決定しました。また、役員については全員再選されました。

は古くから国際貿易港として発展を続けてきたが、最近では、テクノポリス函館に関係する企業の立地や青函トンネル開通等に伴う観

## 株函館シーポートプラザ設立

当市の港湾再開発事業のひとつとして注目されていた旧青函連絡船摩周丸を含む若松ふ頭地区が、

このたび、函館観光の拠点として、再生するための事業主体となる第三セクター、「株函館シーポートプラザ」の創立総会が、来る七月二十六日、函館ハーバービューホテルに於いて開催されることに決定、函館港の再開発事業がいよいよ本格的にスタートすることになりました。

新会社は、函館市や本所のほか、地元経済界や大手民間企業などの出資により設立される

光客数の伸び、さらには、二十一世紀を目指した函館港再開発事業の調査実施などを背景に経済活動も順調に活発化しており、今後も当地域発展のため諸施策の推進に向けて努力していきたい。」との挨拶があり、次いで道経連の四ツ柳会長からは「道経連としても関係諸機関との密接な連携をもとに、本道経済活性化のためのプロジェクトに積極的に協力していきたい。」との発言がありました。

もので、その資本金は最終的に四億八千万円となる見通しです。

新会社では、二十億円余の事業費で、来年七月の開業を目指し、現在諸準備を進めています。その内容は旧青函連絡船摩周丸を「メモリアル・シップ」としてふ頭に保留し、レストランや展示館に利用していくほか、連絡船待合室部分を改装し商業施設としてピアマーケットを開設、さらに公園や緑地等を周辺に配置して親水プロムナードを形成することになっています。

## 友好と交流拡大をめざして 台湾経済界一行来函!

台湾経済界において重要な役割を果している「台北市進出口商業同業公会」の日本貿易訪問団一行（総数十五人）が去る六月二十一日、当市を訪れ五島軒駅前支店において本所と懇談会を開催しました。

懇談会では台湾との変らぬ友好関



訪問団を代表して挨拶する李副団長

係や当市と台北市の両経済界による、より一層の交流拡大に向けての真剣な討議がなされました。

今回の懇談会は、六月十七日の札幌を皮切りに、二十四日の東京まで、五つの都市に於ける関係機関や経済界との交流を通じて、将来に向けた貿易拡大を目指して行われたものです。

当日は、本所から高野副会頭をはじめ、以前から台湾との取引がある会員企業の関係者を含む七人が出席して、それぞれが自らの営業活動を通じて得た経験を踏まえながら、台湾との経済交流などの

現状や今後の課題について活発な意見交換を行いました。

本所からは「台湾との貿易では、海老や鰻の買い付け等をはじめとして、経済訪問団も数多く渡台しており、今後もこれらの実績をふまえ、積極的に経済交流の拡大をはかっていきたい。」との表明がなされ、台湾側からも、台湾での需要の増加が見込まれる北海道産の昆布や帆立等を今後、台湾が輸入する上での協力と貿易促進の柱となる協議会の設立などについて積極的な協力を要請したいとの発言がなされるなど、今後も経済交流の活発化に努力することを約束しました。

これは、当地域を訪れる観光客が安心して土産品を購入できるようにと、みなみ北海道地区観光土産品公正取引協議会が、毎年この時期に開催しているもので、今年で十九回目を迎えました。

この日の検査対象となった商品は、函館や大沼などの主要観光地周辺の土産品店等で販売されているものの中から無作為に買い集められた五十一品（農水産物加工品三十一品、菓子類二十品）の土産品です。

検査会では、公正取引委員会や観光協会などの代表者十二人の審査委員により、アゲゾコなどによる過大な包装や事実のない不当な表示、そして製造年月日などの表示義務事項などについて厳正な審査が行われました。その結果、過大な包装四点と表示義務違反一点の計五点が不合格とされ、同協議会より改善のための指導が製造業者に対して行われました。

## 観光函館をイメージアップ 観光土産品試買検査会開催

夏の観光シーズン本番を控え、観光土産品の過大包装や不当表示を一掃して「観光都市・函館」の

イメージアップをはかろうと「観光土産品試買検査会」が、去る六月二十九日本所で開催されました。

# 事務局日誌 6 月

**\*常議員会**

19(月) 第5回常議員会

**\*総会**

28(木) 第2回通常議員総会

**\*部会**

8(木) 理財部会

**\*委員会**

7(木) 総務委員会

**\*正副会頭会議**

8(木) 第19回正副会頭会議

19(月) 第20回正副会頭会議

28(木) 第21回正副会頭会議

**\*会議(道商連)**

12(月) 第137回専務理事・事務局長会議

13(火) 第39回全道商工会議所大会

14(水) 第39回全道商工会議所大会開催に伴うゴルフ大会

23(金) 第101常議員会

〃 第109回通常議員総会

27(火) 第6回全道商工会議所婦人会正副会長会議

**\*審査会**

13(火) 小企業等経営改善資金の審査会

28(木) 〃 〃

**\*諸会議**

1(木) 第2回函館市社会福祉懇話会

〃 所報「ともえ」No.98(6月号)編集会議

1~2(金) 消費税実施に伴う経営指導員研修会

2(金) 第2回青函インターブロック交流圏構想推進協議会

〃 第4回函館港再開発調査委員会

3(土) 婦人会例会

5(月) 北海道新幹線建設促進道南地方期成会総会

〃 北海道縦貫自動車道建設促進道南地方期成会総会

〃 函館販売士協会定時総会・記念講演会

6(火) みなみ北海道商工振興連絡協議会幹事会

〃 新幹線現函館駅乗入れ促進期成会常任幹事会

〃 婦人会役員会

7(水) 新幹線現函館駅乗入れ促進期成会役員会・総会

8(木) 函館市自衛隊協力会設立総会・防衛講話

9(金) 函館都心商店街振興組合第6回近代化推進委員会

10(土) 開港130周年記念函館港まつり第3回企画委員会

14(水) 箱館五稜郭祭募金委員会反省会

〃 平成元年度商工労働観光施策推進会議

15(木) 南北北海道が連帯して北海道分県を進める会総会

〃 函館若松埠頭再開発に伴う会社設立準備委員会

16(金) 道経連「函館地域経済懇談会」

20(火) 函館若松埠頭再開発に伴う会社設立準備委員会

〃 開港130周年記念函館港まつり万人踊りパレード事前説明会

21(水) 台北市進出口商業同業公会日本貿易訪問団との懇談会

〃 みなみ北海道広域商工振興連絡協議会総会

22(木) 箱館五稜郭祭実行委員会

23(金) 函館観光協会総務委員会

〃 開港130周年記念函館港まつり企画委員会募金部会

23(金) 婦人会例会

28(木) (株)函館シーボートプラザ設立発起人会

〃 函館地区税務指導協議会

〃 倒産防止特別相談事業推進担当者会議

30(金) 京都観光客誘致対策協議会「観光懇談会」

**\*陳情・要望**

9(金) 函館空港滑走路3,000メートル延長に係る中央陳情

**\*講習・催物**

1(木) 函館市高齢者大学講座

〃 記帳講習会

1~6(火) 第6回北海道味覚まつり

5(月) 消費税対策セミナー(卸・小売業、製造業)

6(火) 〃 (建設業、サービス業)

7(水) 〃 (製造業、卸・小売業)

8(木) 記帳講習会

9(金) 消費税対策セミナー(サービス業、建設業)

14(水) 記帳講習会

〃 経営相談

14~19(月) 第15回「大浅草まつり」

16(金) 個人事業者のための「税務調査(消費税含む)の対応策」セミナー

20(火) 経営安定特別セミナー「上手な資金繰りのコツと金融機関の活用」

21(水) 発明相談

22(木) 記帳講習会

23(金) 法律相談

26(月) 北東公庫出融資相談室

27(火) 函館経営者協会セミナー「安全管理の実務と改正安全衛生法解説講座」

29(木) 記帳講習会

**\*検定試験**

11(日) 第70回簿記検定試験

25(日) 第126回珠算能力検定試験

**\*刊行物**

22(木) 所報「ともえ」No.98(6月号)発行

**\*相談・診断**

金融 142 税務 89 経 理 33 経 営 97  
労働 18 取引 0 その他 9 計 388

**\*貸 室**

本 館 20 別 館 1

**\*文 書**

受 信 330 発 信 11

**\*慶弔・その他**

2(金) 北東公庫滝沢理事(新任)表敬訪問

5(月) 北海道企業誘致促進月間に伴う企業訪問

8(木) 北海道運輸代行事業協同組合設立祝賀会

15(水) 本所会計監査

16(金) 四共済ゴルフ例会

20(火) 北海道商環境衛生同業組合定期総会函館大会懇親会

22(水) 函館警察官友の会優良警察職員表彰式

24(土) 全日空函館支店第11回「ANA ッ子」ゴルフ大会・懇親会

26(月) (社)函館青年会議所全国大会現地調査団表敬訪問

29(木) みなみ北海道地区観光土産品公正取引協議会観光土産品試買検査会

30(金) 工藤万砂美函館後援会道南地区総決起大会

〃 函館日ソ親善協会設立記念祝賀会

**(3)その他製造業**

合板では、家具・家電向け高級品を中心に需要堅調なうえ、市況も持ち直し傾向にあり、目一杯の生産を続行。また漁網では、定置網の更新需要が引き続き好調とあって比較的高目の操業を維持。段ボールでも、主力加工食品・青果物向け出荷が順調なため、まずまずの生産水準を確保している。

**(4)建設関連**

5月の管内主要官庁の公共事業発注額は、国家予算成立の遅れを映じて前年割れとなった(主要5官庁の月中発注額前年比 $\Delta 33.3\%$ )。また民間建築も5月は大口物件の着工一服等から高水準の前年を下回る結果となった(市内新設住宅着工戸数前年比 $\Delta 43.9\%$ 、非住宅着工床面積同 $\Delta 51.4\%$ )。もっとも、建設筋では、依然豊富な手持ち工事を抱え活況を呈しており、鋼材等建設資材の荷動きも活発。

**(5)農 業**

農作物の生育状況は、主力水稻、馬鈴薯等殆どの作物が平年並みで、概ね順調に推移。

**(6)漁 業**

6月解禁の近海マイカ漁は、魚群の来遊から順調な水揚げをみている。一方、噴火湾毛ガニ漁は、6月中旬以降半月間の限定操業ながら目下のところ水揚げは低調な模様。

**(7)消費関連**

5月中の市内大型小売店(10か店)の売り上げは、消費税導入前の駆け込み購入の反動やゴールデンウィーク中の客足鈍化から家庭用品、食料品が不冴えであったものの、主力衣料品、身回り品の売れ行きが戻って

きたため、全体では前年並みの水準(前年比 $\Delta 0.9\%$ )にまで回復。6月入り後は、夏物衣料品等を中心に比較的順調な売れ足を見えており、目先中元商戦に対しては強気の見方が大勢。一方、耐久消費財では、家電販売が大型カラーテレビ等値嵩商品を中心にまずまずの売れ行きを示したほか、自動車販売も乗用車の好売れ行きを主因に高水準の前年をさらに上回る伸びを記録(5月中の官内新車販売台数前年比 $+6.5\%$ )。

この間、観光・レジャー面をみると、ホテル・旅館等では、修学旅行生等道内外客の入込み増から好調裡に推移しており、夏季の宿泊施設予約状況も順調な模様。

**3. 金融事情(5月中)**

- 実質預金は、地公体の資金運用部資金借入金の滞留や年金の流入を中心に月中76億円増加したものの、増加幅は前月末休日に伴う法人筋の流動性預金の剥落が響き前年(91億円増)を下回った。一方、貸出は月末休日要因があったにもかかわらず、地公体向け貸出の回収が前年に比べ少なかったこと等から月中59億円減と前年(61億円減)並みの減少額に止まった。この間、官内銀行の貸出約定平均金利は、低利な地公体向け貸出の返済進捗から、月中 $+0.010\%$ と2か月連続の上昇(前月 $+0.033\%$ )。
- 銀行券は、観光・レジャー資金等の順調な還流を主因に87億円の大増還収超(前年同75億円)。
- 財政収支は、地公体向け資金運用部資金貸付の実行を主因に月中68億円の大増払超となったものの、払超幅は同貸付が高水準の前年を大きく下回ったため、前年(払超117億円)比大幅縮小。



5月

地域の

景況

——日本銀行函館支店——

## 1. 概況

- 最近の管内経済動向をみると、設備投資、個人消費を中心とする内需の堅調を背景に、企業の売り上げ、生産は総じて順調な伸びを続けており、企業経営者の景況良好感も高水準を持続するなど、管内景気は好調裡に推移している。
- すなわち、製造業では、半導体、乳製品等が需要好調から能力一杯の生産を続けているほか、夏場需要期を控えた水産加工が増産を図っており、漁網、段ボール等でも、根強い実需に支えられてますますの生産水準を維持している。一方、非製造業では、建設関連筋が公共工事発注の遅れなどもさして響かず、依然高水準の受注残を擁して繁忙を呈しているほか、百貨店売り上げ、自動車販売等も総じて堅調に推移しており、観光関連筋でも観光客の入込み増から活況裡に推移。

こうした状況下、5月に実施した管内企業短期経済観測調査結果をみても、企業の平成元年度上期収益は、増収効果等から多くの先が好収益を見込んでおり、平成元年度設備投資計画も、製造業の能力増強・合

理化投資、非製造業のホテル等大型投資を中心に前年の規模を上回る見通しとなっている。

- 5月中の金融動向をみると、預金は公金預金の滞留や年金の流入等があったものの、前月末休日に伴う法人預金の剥落から前年を下回る増加。一方、貸出は地公体向け貸出の回収等から前年並みの減少。この間、管内銀行の貸出約定平均金利は前月に引き続き上昇。

## 2. 主要業種別動向

### (1)機械

電子部品でま、半導体が大型家電・通信機器向け需要の好調を背景に目一杯の生産を継続しており、併せてもう一段の能力増強を企図、また4月から生産を開始した水晶振動子も順調な滑り出しをみせている。一方、合板・製缶機械では、新規受注は前年を下回っているが、現状手持ち受注消化のためますますの生産水準を維持しており、造船でも、修繕船、産業機械の受注増から操業度が漸次上昇。

### (2)食料品

乳製品では、練乳の引き合いが引き続き活発なうえ、飲用乳の売れ行きも好調とあって、フル生産を継続。水産加工では、生鮮珍味が中元贈答用の受注好調から増産を図っているほか、乾燥珍味も夏場行楽需要に期待して高目の備蓄生産を実施。また飼料・魚油では、市況好転もあって主力飼料の荷動きが好調なうえ、魚油（輸出）も競合商品（大豆油等）値上がりによる割安感から幾分持直し。

図-3

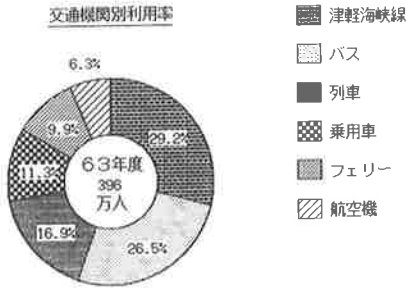


図-4

交通機関別入込数等  
(単位：千人、%)

	交通機関別入込数・利用率					
	連絡船	列車	バス	フェリー	乗用車	航空機
昭和59年度	665 25.6	652 25.1	521 20.0	267 10.3	285 11.4	197 7.6
昭和60年度	657 24.1	633 23.2	651 23.8	268 9.8	321 11.8	200 7.3
昭和61年度	643 21.5	612 20.5	856 28.6	296 9.9	370 12.4	213 7.1
昭和62年度	877 25.6	598 17.5	973 28.4	317 9.3	425 12.4	233 6.8
昭和63年度	1,158 29.2	669 16.9	1,049 26.5	391 9.9	448 11.3	248 6.3

※ 上段：入込数、下段：利用率  
※ 63年度 「連絡船」は津軽海峡線利用者数

図-5

函館市観光客入込数  
(単位：千人、%)

	観光客入込数			前年度 対比	宿泊・日帰り別	
	道外	道内	計		宿泊	日帰り
昭和57年度	1,274	1,257	2,531	100.4	1,380	1,151
昭和58年度	1,206	1,249	2,455	97.0	1,332	1,123
昭和59年度	1,179	1,418	2,597	105.8	1,410	1,187
昭和60年度	1,594	1,135	2,729	105.1	1,487	1,242
昭和61年度	1,759	1,231	2,990	109.6	1,628	1,362
昭和62年度	2,134	1,289	3,423	114.5	1,851	1,753
昭和63年度	2,562	1,401	3,962	115.7	2,153	1,809
63年 4月	101	76	177	119.5	65	111
5月	344	237	581	116.1	349	232
6月	360	176	535	117.5	321	214
7月	397	204	602	130.0	361	241
8月	543	255	798	114.4	479	319
9月	336	197	533	127.4	261	272
10月	196	103	299	111.2	135	164
11月	87	44	133	107.5	49	83
12月	36	22	58	104.8	21	36
平成元年1月	37	21	58	96.0	24	34
2月	56	23	79	90.9	36	44
3月	68	41	109	75.5	52	57

## 統計資料

### 第一種函館市内大規模小売店舗売上高 (10店) 平成1年5月

品名	売上高(千円)	対前月比(%)	対前年同月比(%)
衣料品	2,883,470	102.0	101.0
身回品	556,774	110.7	104.1
雑貨	654,724	85.5	101.0
家庭用品	568,159	75.8	88.6
食料品	1,548,613	104.5	97.1
食堂・喫茶	180,966	106.4	98.5
サビス	89,098	86.3	91.0
その他	467,840	97.2	100.2
総計	6,949,644	98.1	99.0

※10店とは棒二森屋、丸井今井、さいか、和光、ハイショップホリタ、テーオー小笠原、長崎屋、イトーヨーカ堂、函館西武、ホリタショップパーズプラザ湯の川店の各店をいう。

経済の窓

昭和63年度

観光客入込数

函館市では例年当市を訪れる観光客の入込み状況について調査・推計しております。

昭和63年度の概要についてお知らせいたします。

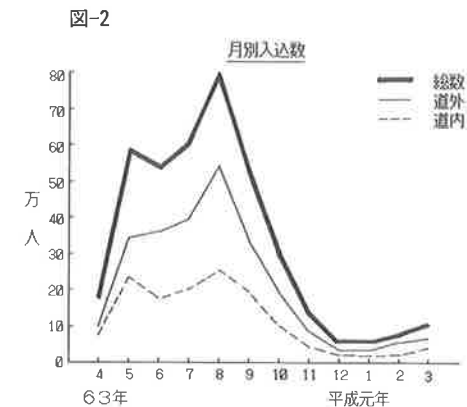
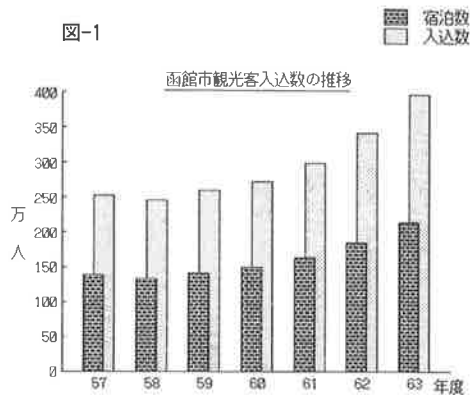
観光客入込数の概要

昭和63年度の来函観光客数は、396万2千人で、前年度(342万3千人)に対して53万9千人、15.7%の増加と、400万人に迫る入込みとなりました。増加の要因としては、①青函トンネル開通記念博覧会開催の影響 ②青函トンネル開通の効果 ③観光資源の整備充実(函館山ロープウェイの大型化と山頂展望台の改築整備、ウォーターフロント地区の充実) ④テレビ・雑誌などのマスメディアによる各種宣伝効果などが考えられます。(対前年比14.4%増)

入込数を月別にみると、8月79万8千人で全体の20.1%を占め、次いで7月の60万2千人(同30.0%増)、5月の58万1千人(同16.1%増)、6月の53万5千人(同17.5%増)と天候不順、低温にもかかわらず夏場の入込み(5~8月計対前年比18.8%増)が好調。一方で、

少雪の影響からスキー客が減って冬場の入込み(1~3月計同15.8%減)は低調となりました。

また利用交通機関別では、どの機関も利用が増えており、特に青函連絡船廃止後の津軽海峡線は、対前年比32.0%増、フェリーも同23.5%増加するなど青函トンネル開通の影響があらわれています。



繁栄  
主婦イベント  
&  
びんご

販売促進につながる  
イベントあれこれ



市日は  
生活のはじまり

主婦の決め買いが増えています。良いものと悪いものを選別する目は、お店が考えている以上に数段上です。住居費や教育費の増加は、少からず食費に影響しています。専業主婦から有業主婦へと変化するに従い、調理食品や半加工品が食卓に登場する割合が高くな

著者 / 岩淵 大明

り、外食行動も見逃がせなくなってきたいます。生鮮品に対する高価値と鮮度・素材に対するあこがれは強く、イベントによる訴求力には大きいものがあります。

主婦のチラシによる比較購買の度合は年々高まっており、特にスーパーの仕入れ担当者の無思想な値入れでは、主婦の情報量には及びません。

当店は東京の郊外にあつて、地元では知名度の高いスーパーです。当店では利益を還元するため、お客様へ感謝の気持ちを込めて、月に1回(1日~3日)生鮮三品を格安で提供して、素材の良さを知ってもらおうと生鮮の市を実施しています。

旬のものを存分に味わえることは、主婦にとって大きな魅力となつていきます。生鮮の市を実施してから8年目を迎えようとしていま

すが、お客様の反応は依然として期待感が強く、市の日が月の生活のはじまりに定着していることが伺えます。支持者の増加に伴い、当初は利益を還元していた生鮮の市は、利益を生む販促イベントに成長しています。

とにかく定例化することにより、お客様に認知されれば、イベントは効果を表わしてくることを物語っています。

ところで、市日を設立するには工夫がいります。主婦の思考は、給料日後に月間で消費する米穀や消耗雑貨の購入を計画的に行い、生鮮品の購入は、鮮度と価格の兼ね合いで決定されています。特に青果、野菜はひき売りや生協の活用により、スーパーでの購入は必要最低限のものに限定されています。



65年の伝統と信用を誇る

早川特許事務所

特許、実用新案、意匠、商標、権利侵害

所長 弁理士 早川 政 名

〒112 東京都文京区白山5-14-7 早川ビル 電話 (03) 946-0531 <代表>

発明相談 8月23日 水曜日午後1時から午後5時まで、函館商工会議所で相談をお受けいたします。相談は予約制になっていますので、商工会議所相談課 (23-1181・内線63番) にお申し込み下さい。

す。冷凍庫の普及に伴い、鮮魚、精肉といった保存できる商品の購入は、提案のタイミングにより、十分購入を促進することができま

す。当店の月初の生鮮の市は、給料日後とお値うち商品の提供という二面が重なりあい、定着化してきたものと思われま

新しい時代に向けて

地域により密着した店づくりを考

えるとき、地元

流行をつくりだしているのは、団

魂の世代から彼らの子供達の世代に移行して

いきます。このハイタッチ、ハイキャッチの世代は、メ

ディアへの反応は極めて敏感です。イベントを実施する際に、商店

街では双方の情報機器の導入を行い、来街者へのイベントの伝達

などをタイムリーに実施していきま

す。やるぞというアピール型の情報伝達から、お客様側に立った情

報伝達に変化していきま

す。イベントを効果的に行うためには、その対象とする客層を明確に

することが必要で、それなりの当

店としての顧客管理データが前提

となります。このお客様は今月は何回来店して

いた

の導入を機に顧客台帳の整理を行

いました。その結果は、人間の印象というの

はあてにならないとい

うことでした。経営者は来店頻度の高いお客様が、

当店にとって売上貢献度の上位にランクされると

考えていました。貢献度分析では、

年間の来店頻度の低いお客様が上位に位置して

いました。このデータがなければ、

経営者のお客様に対する対応の仕方

には差異が生じたでしょう。お客様別のイ

ベ

ント対策も違ったものになってい

たでしょう。



新しい時代に突入して、新たな

対応を模索するとき、

お

店として

お客様についての徹底研究の

でき

ふそう大型トラック  
ザ・グレート

小・回・り・の・ま・い

街の1.5トン

ふそう中型トラック  
ファイター

センターガッツ

函館三菱ふそう自動車販売株式会社

■本社 / 函館市昭和3丁目32番26号 ☎0138-42-1122(代)

# まず継続して「活用」しよう

## 国内・海外の動向を読む

### 経済記事の利用の仕方(上)



経済評論家

石井 勝利

今は経済の時代であると言われていて。主婦はもちろん、OL、学生までが株式投資に熱心になり、円高の問題や貿易摩擦、さらには、アメリカのブッシュ大統領の発言に注目したりしている。

もともと、これら経済問題は政治、外交とは切りはなせないのであるが、なぜか、政治→汚職、外交→自分に関係ない、といったことが一つの考え方になってしまっている。

私は、現在、毎週金曜日の朝五時四十分から六時半まで、「ラジオたんば」で「経済モーニング」のキャスターをつとめているが、本のプレゼントなどをすると、全国津々浦々から、聴取

者たちのハガキがどつと来る。これはまったく驚きである。

ニューヨークの株式相場、為替相場、そしてシカゴやニューヨークの商品市況をおりませながら、日経新聞のおもな記事の解説をし、最後に、株式投資銘柄の注目点などについて語っているのだが、本当に熱心な人たちである。おそらく、この記事を読む人たちの中にもこの「熱心な人」がたくさんいることと思う。

そこで、「経済記事の利用の仕方」について、今回は全般的に、国内、海外の記事の利用法、そして、次回は、株式、金融、債券、商品市況などについての各論的な利用法についてふれたいと思う。

#### ① 経済記事は継続して読むこと

よく、「私は経済記事はニガ手だ」という人がいる。しかし、魚屋さんは魚市場の相場にはひと一倍敏感であろう。また、園芸農家は、果物などの相場には誰よりもくわしい。これは、なぜかといえば、自らの生活にダイレクトに響く問題だからである。それでは、円高や、原油価格、あるいは貿易摩擦といった金融、外交にかかわる国際的な規模の問題についてはどうか。

「どうもよくわからない」というのが一般的な反応であろう。しかし、円高が円安になれば輸入品は上昇し、物価は上がる、

物価が上昇しインフレ傾向になれば、日銀は公定歩合を引き上げたり、金融をきつめにして、これをおさえこもうとするであろう。そうすると、商売で借りている銀行からの運転資金の金利は上がってくる。売る商品の原価も上がる、したがって、商品も値上げせざるをえない。

そうになると、消費税と同じように、お客様にいちいち説明しながら「これこれの理由で値上げになりました」と言って売ることになる。そのキツカケが結局は「円安」なのである。そうになると、商売をしている以上これらの問題について「ニガ手」ではすまされない。そこで、なるべく、自らの仕事に結びつけなら、一つの問題について継続して読んでいくことである。そうするうちに、「ああなるほど……」というようにわかってくる。

## ② 知識は連鎖的に広がっていく

このように一つの経済記事が読めるようになると、その関連で、円安↓原油高↓消費者物価↓プライムレート↓金利といったように、つぎつぎに理解はつながっていくものなのである。

そうなればしめたもので、経済記事は「読めること」から「利用する」「活用する」というように広がってくる。たとえば、いちばん手っとり早いのは一〇〇万円を用意して、一〇〇〇円以下の銘柄でも買ってみることだ。

電力株なら五〇万円でも一〇〇株単位で買える、そうすることによって、経済記事すべてが、自分との関係で「損得」の問題になってくる。こうなれば、しめたものである。それこそ、国際的には西ドイツの公定歩合の動向、OPEC総会、中東情勢。また、国内的には、消費動向、百貨店の売り上げ、卸売物価、有効求人倍率、リゾート法、週休二日制、政局といったことが、あわい霧もやの中から、はつきりと見えるようになってくるのである。そうなれば、このきびしい企業競争、商戦の中で「自分が何をなすべきか」がわかってくる。日経新聞でも、朝日新聞でも、何でもよい。今は、どの新聞も経済記事に力を入れているので、これを大いに活用して、事業を伸ばしていただきたい。

次回はもう少し突っ込んで、各論に入って理解することしよう。

### 【石井 勝利（いしい・かつとし）氏の略歴】

一九三九年栃木県生まれ。早稲田大学政治経済学部卒。文化放送を皮切りに新聞社などマスコミ三〇年。株式、金融、ビジネス、住宅評論から、経営コンサルティングまで幅広い活動をしている。おもな著書に『日本経済新聞を120%読みこなす法』『今までで一番わかりやすい経済のはなし』ほか多数。